



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2022年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2022年2月10日

2022年3月期第3四半期 決算概要

2022年3月期第3四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



前年同月比の月別売上高は、新型コロナウイルス感染症による影響により、2021年4月以降は増加または前年同月並みとなっている。

2022年3月期第3四半期総括

売上高と営業利益は過去2位、経常利益は過去3位、前年同期比で減収減益

売上高	: <u>4,666</u> 百万円	前期比	0.5%減		
営業利益	: <u>694</u> 百万円	前期比	2.5%減	利益率	14.9%
経常利益	: <u>726</u> 百万円	前期比	2.7%減	利益率	15.6%
当期純利益	: <u>508</u> 百万円	前期比	3.7%減		

受注高は過去3位、受注残高は過去最高

受注高	: <u>4,491</u> 百万円	前期比	2.3%減
受注残高	: <u>2,388</u> 百万円	前期比	6.0%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- ・ 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少し、官公庁向けの開発やインターネット分野の民間企業向けの開発が増加するなど、需要構造の変化が継続している。
- ・ 当第3四半期は、主要顧客である移動体通信事業者向けの開発が予想を上回って減少したため、需要構造の変化に対応しきれず減収減益となったが、四半期の業績推移では増収増益に転じている。

第3四半期損益計算書

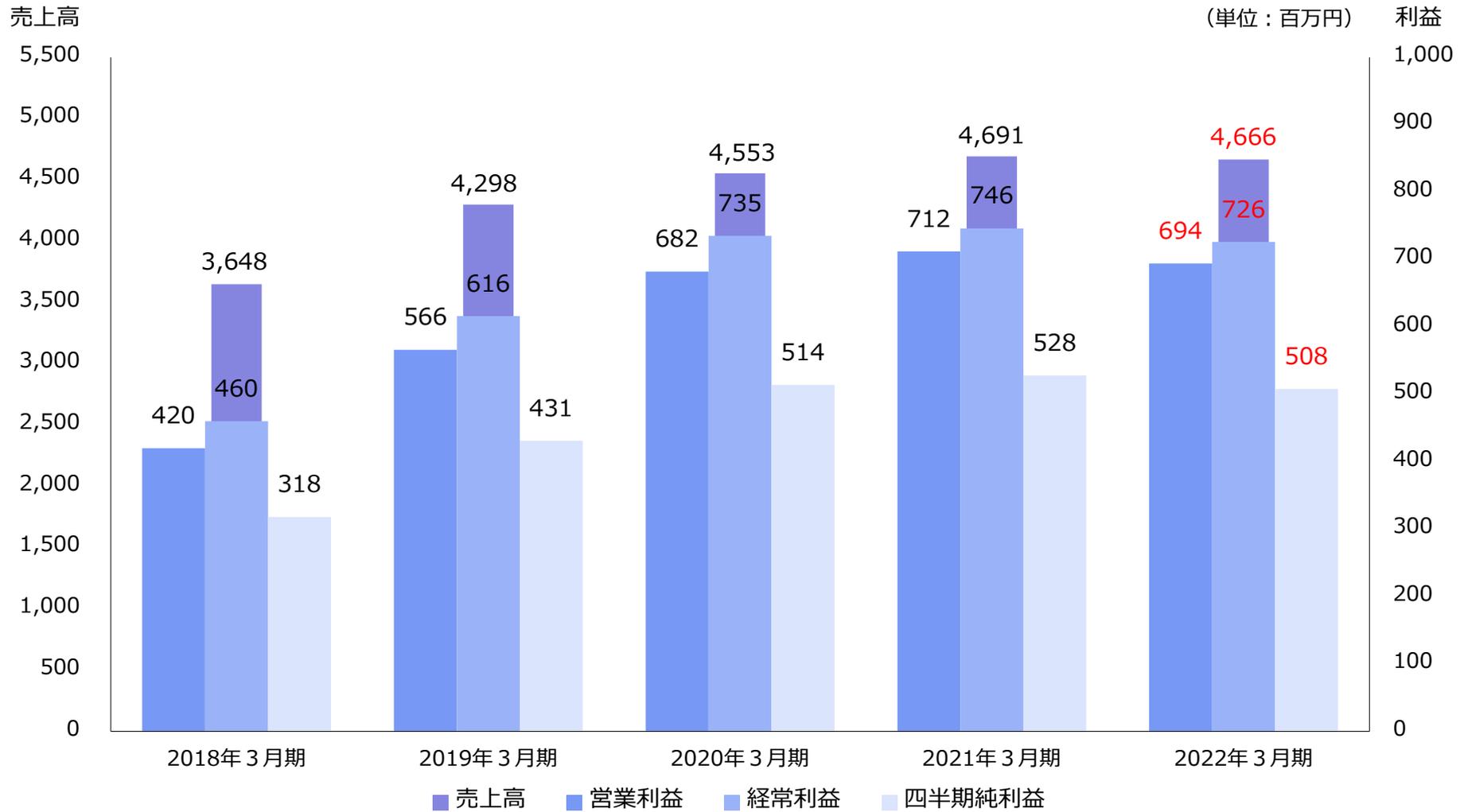
	2021年3月期第3四半期 (百万円)	2022年3月期第3四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	4,691	4,666	99.5	—	—
売上原価	3,362	3,289	97.8	—	—
売上総利益	1,328	1,377	103.7	—	—
販売管理費	615	682	111.0	—	—
営業利益 (営業利益率)	712 (15.2%)	694 (14.9%)	97.5	—	—
経常利益 (経常利益率)	746 (15.9%)	726 (15.6%)	97.3	—	—
当期純利益	528	508	96.3	—	—

売上原価 外注費が減少 (外注費 13.8億円、前年同期比4.9%減、売上高外注比率29.7%、前期31.0%)

販売管理費 新入社員の増加、及びそれに伴う教育体制の強化により労務費が大幅に増加、研究開発費も増加 (研究開発費は44百万円で、前年同期比で28.1%増)

第3四半期決算業績推移（過去5年）

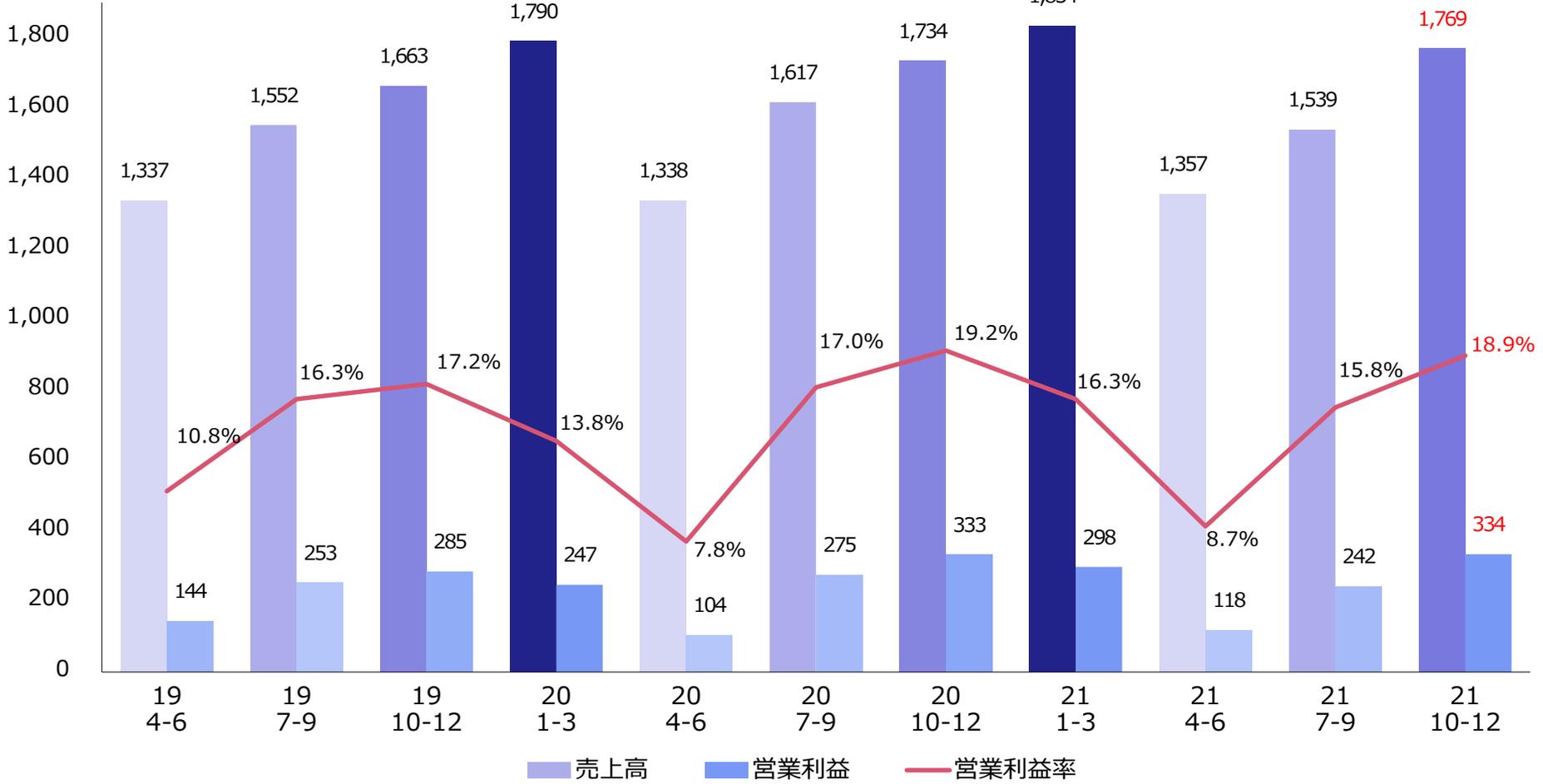
売上高、営業利益は過去2位、経常利益は過去3位



四半期業績推移 (P L)

2019年度 1 四半期の増収減益→ 2 四半期連続の増収増益→ 2 四半期連続の増収減益
 → 4 四半期連続の増収増益→減収減益→当四半期は再び増収増益

(単位：百万円)

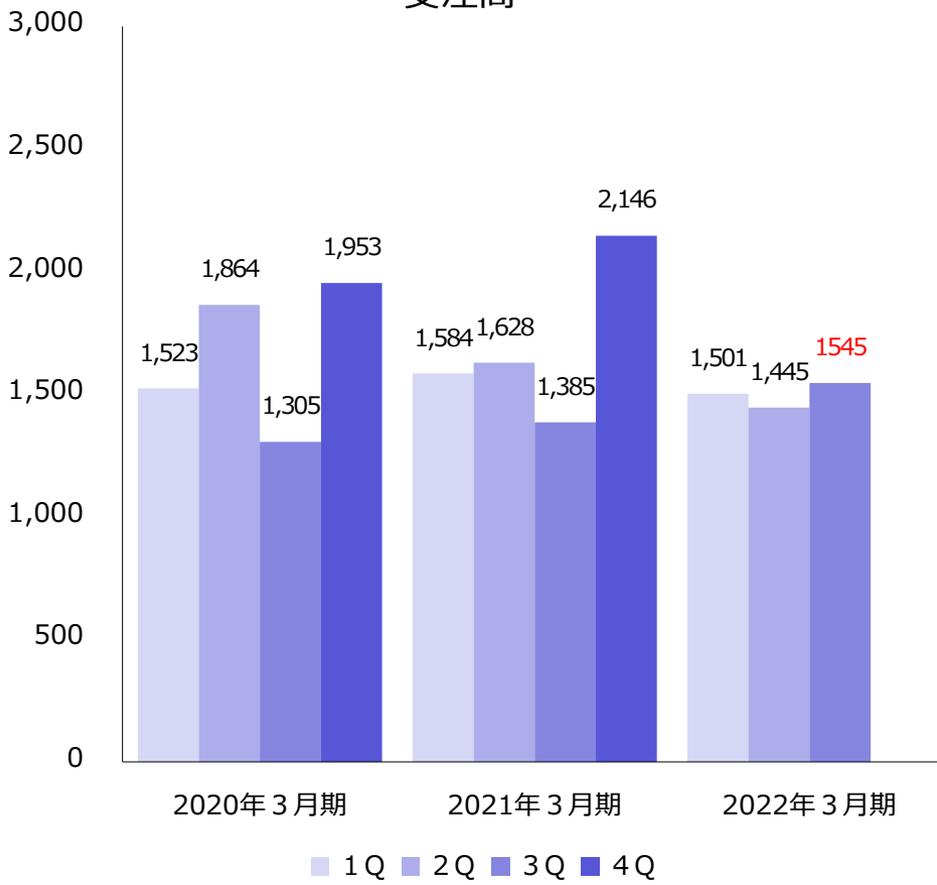


四半期業績推移 (受注状況)

受注高、受注残高ともに過去最高

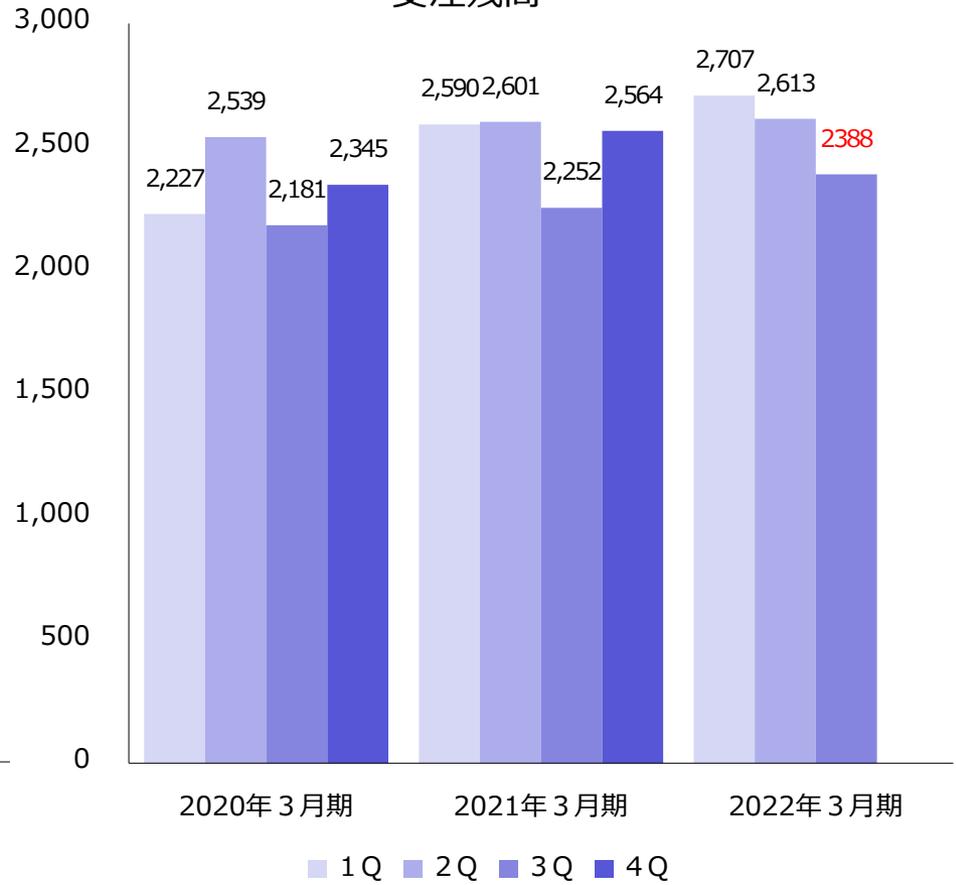
(単位：百万円)

受注高



(単位：百万円)

受注残高



第3四半期B F別の状況

インターネットB F、社会基盤システムB Fが増加

ビジネスフィールド	2021年3月期第3四半期		2022年3月期第3四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	729	15.5	447	9.6	61.3
インターネット	717	15.3	872	18.7	121.6
社会基盤システム	1,401	29.9	1,589	34.1	113.4
宇宙先端システム	1,842	39.3	1,757	37.6	95.4
合計	4,691	100.0	4,666	100.0	99.5

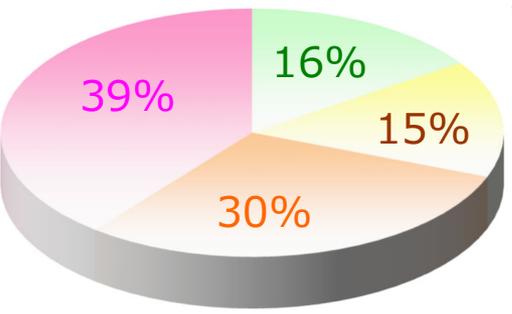
- ・ モバイルネットワークB Fは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少
- ・ インターネットB Fは、民間企業向けの開発が増加
- ・ 社会基盤システムB Fは、官公庁向けの開発が引き続き堅調
- ・ 宇宙先端システムB Fは、車両自動走行の研究開発案件は堅調だったが、通信事業者向けのサービスロボットの大型案件や宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

第3四半期BF別構成比

社会基盤システムBFとインターネットBFが拡大

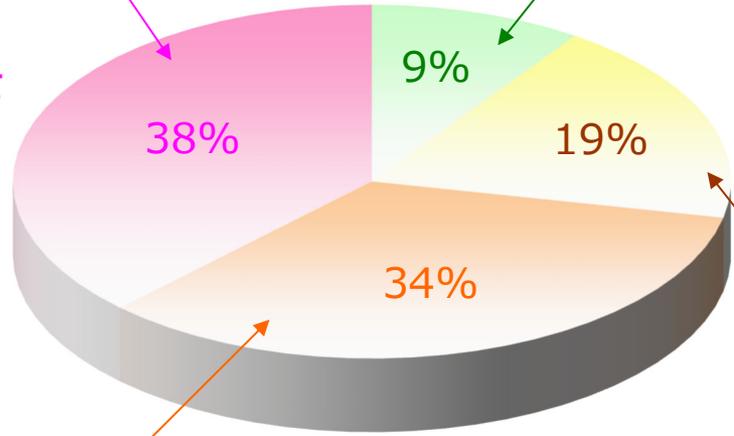
宇宙先端システムBF
車両自動走行の研究開発案件は堅調だったが、通信事業者向けのサービスロボットの大型案件や宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

モバイルネットワークBF
移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少



2021年3月期第3四半期

需要構造の変化に応じて柔軟に対応



2022年3月期第3四半期

社会基盤システムBF
官公庁向けが開発が引き続き堅調

インターネットBF
民間企業向けが開発が増加

第3四半期末のB F別受注状況

インターネットB F、社会基盤システムB Fが増加

ビジネスフィールド	2021年3月期第3四半期		2022年3月期第3四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	664	234	457	68.8	169	72.3
インターネット	739	314	809	109.5	304	96.6
社会基盤システム	1,391	1,151	1,468	105.5	1,334	115.9
宇宙先端システム	1,803	551	1,756	97.4	580	105.1
合計	4,598	2,252	4,491	97.7	2,388	106.0

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは1,536百万円、前期(1,606百万円)と比較し4.3%の減少)

- モバイルネットワークB Fは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少したため、受注高は大幅に減少
- インターネットB Fは、民間企業向けの開発が増加したため、受注高は増加
- 社会基盤システムB Fは、官公庁案件が増加したため、受注高は増加
- 宇宙先端システムB Fは、サービスロボットの研究開発の計画変動があったため、受注高は減少

ロボットビジネスの状況

実績 (2022年3月期第3四半期 売上高約1,187百万円)
← 前年同期約1,260百万円 ← 前々年同期約998百万円)

車両自動走行は前期並み、サービスロボットの研究開発案件は大型案件が終了し減少

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が堅調
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件は計画変動により減少
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築、通信、国の研究機関などのサービスロボットの研究開発案件は、通信事業者向けの大型案件が前期に終了したことにより減少
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボットなど広範囲
⇒ 顧客層の拡大傾向は継続

今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMSafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

2022年3月期 通期業績見通し

2022年3月期業績見通し

通期業績見通しは変更なし

(単位:百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,525	6,700	102.7
売上原価	4,676	4,720	100.9
売上総利益	1,849	1,980	107.1
販売管理費	838	930	111.0
営業利益 (営業利益率)	1,011 (15.5%)	1,050 (15.7%)	103.8
経常利益 (経常利益率)	1,054 (16.2%)	1,090 (16.3%)	103.4
当期純利益	727	750	103.1

当第3四半期は、累計では減収減益となったが、四半期では増収増益となり、全体的な商談状況は回復傾向にあることから、通期業績見通しに変更はない。

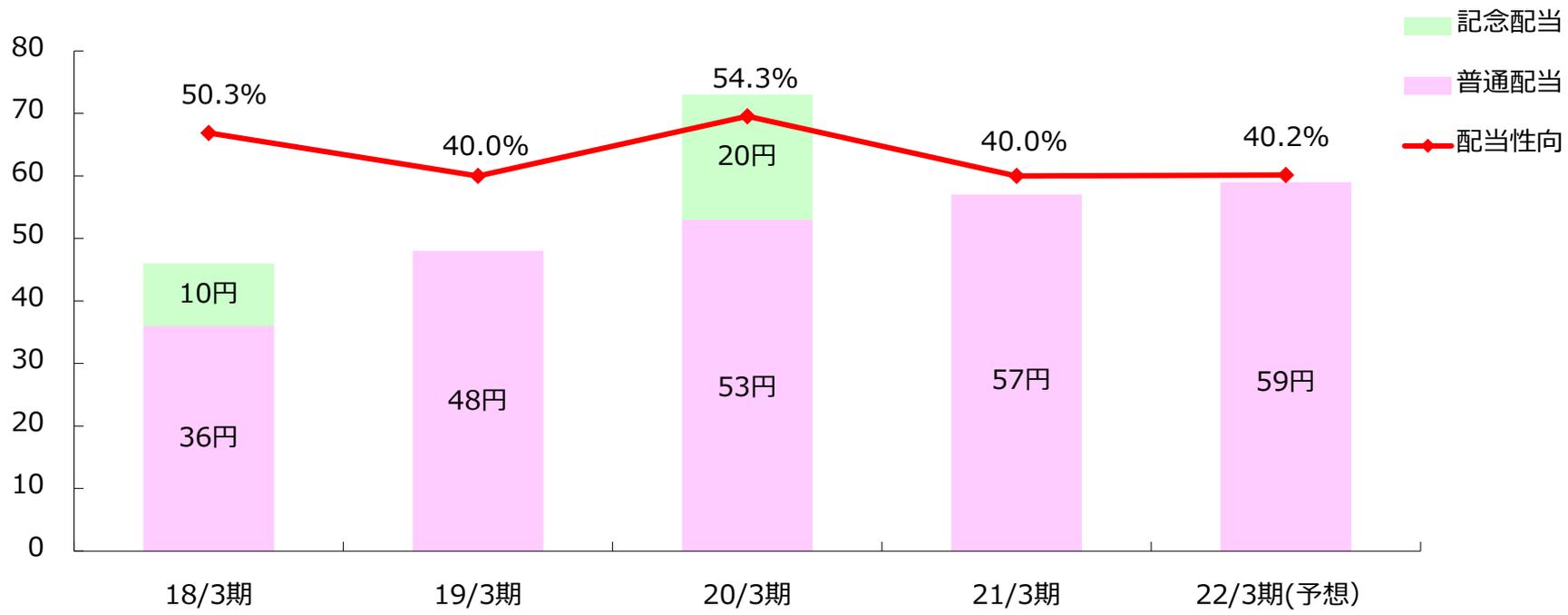
2022年3月期B F別業績見通し

社会基盤システムB F、インターネットB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第3四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、需要構造の切替時期にあたり、全体では減少	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少し想定を下回る展開	➡
インターネット	民間企業向けの大型案件に不透明感があり、減少	➡	民間企業向けの開発案件が増加し、想定を上回る展開	➡
社会基盤システム	医療を含めた官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡	官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調で、増加	➡	車両自動走行の研究開発案件は堅調だが、通信事業者向けのサービスロボットの大型案件や宇宙天文分野の大型案件の開発が前期で終了したため全体では微減を見込む	➡

配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2022年3月期は1株当たり59円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。